

<2022 年 3 月期 第 1 四半期 決算説明会 主な質疑応答>

日時 : 2021 年 7 月 30 日 (金) 18:00~18:50

出席者 : 取締役 CFO 岩本 秀之
CSO 補佐 尾崎 真人

Q. 金属、化エレについて今後の持続性の見立てを聞きたい。

金属市況 (PGM、アルミ、スクラップ等) は高い水準が続くと思われるが、その認識でよいのか? また化エレの利益水準は継続するか?

A. 金属は自動車生産台数内示を見ても落ちていない状況、また市況も下落していないため、足元の数字が継続するイメージ。化エレ、エレクトロニクスは民生系、自動車材料が引き続き強い。ナフサも原油価格が維持されているので、2Q も現在の利益水準が継続すると見ている。

Q. 2Q 以降の懸念材料として、コロナ再拡大やコンテナ不足、半導体不足があるとのことだが、今 1Q では影響が出ていないように見える。今後、コロナ影響が下押し要因と考えてよいのか?

A. 1Q はコロナ影響は大きくなかった。一方で、最近の報道であるようにタイとベトナムの部品系でコロナ影響により、生産に懸念があるため、注視。コンテナ不足は 1Q で多少影響が出ており、今後もエア―便などの使用により費用発生の可能性あり。半導体不足影響はこれまでは 2Q がピークと見ていたが、年内は不足影響が継続すると予想し、北米や日本の車種に影響が出ると見ている。

Q. 過去、半導体不足影響は御社にとってプラスで出ると伺ったが、実際に出ているのか? また、御社は半導体確保で苦戦はしないのか?

A. 半導体不足の影響で需要が高まり、利益は確保できている。この傾向は年内は継続すると見ている。ただし、品番によっては品薄のものあり、サプライチェーンを絶やさないように商社機能を発揮し、部材を確保している。

Q. 自動車販売は 4Q 対比でモメンタムが落ちているように見えるが、今後、ネガティブな要素はあるか?

A. 自動車販売は 4Q から引き続き、好調を維持。特にロシアやパプア、アフリカの産油国が好調で、市況価格に支えられている部分もあり、4Q から落ちたとは見ていない。ただし、コロナ影響で中南米やカリブは苦戦が予想され、南アフリカも不透明。

Q. 7月8日にCN宣言を発表されている。対象範囲は単体と連結子会社で、持分法適用会社を含まないという理解でよいのか？また50%削減をどのように実現しようとされているのか教えてほしい。

A. SBT (Science Based Targets) の基準に基づき、スコープ1と2は連結子会社までが対象、今後、スコープ3で持分法適用会社を検討。削減目標については2019年74万トンの排出量に対して2030年で半分にするとしている。具体的な削減方法については検討中。例えば金属の溶湯は排出量が多く、チャレンジングな目標であるが、実現に向けて現在スタディしている。

Q. トヨタ自動車生産台数の見込みは？

A. 2Qも1Q並みの生産台数と見ている。

Q. 販管費が増えているが、コロナ前に戻ったと認識してよいのか？

A. 販管費は圧縮されたと認識している。今回はユーロ高の影響もある。そのため、使っている金額自体はコロナ禍の状態と変わっていない。年内は続くとみている。

Q. アフリカの税率について教えて欲しい。前4Qは20%ほどで1Qも低いままだが、徐々に戻るのか？

A. アフリカの場合は国によって税率が異なる。税率が低い国の収益やインセンティブのある政府向けビジネスが増えると税率が下がる傾向。

Q. 南アフリカの暴動影響は出ているか？

A. 暴動による被害はない。工場は7日間止まったが、止まった分の遅れは9-10月で取り戻す予定のため、自動車生産については影響ない。ただし、南アフリカ経済の落ち込みが販売面へ影響するかを注視している。

Q. アフリカでコロナ第3波が発生しているが、販売への影響は限定的だと考えてよいのか？

A. 現在のところ、影響は出していない。西側は既にコロナ前の水準まで戻っている。東側もコロナ前よりも若干ビハインドしているがキャッチアップ中。

Q. 金属の価格上昇に関しては、材料購入価格は四半期毎に変わると認識しており、下期にもう一段階上がると予想するがその認識でよいのか？また、金属市況上昇の中でどの金属が大きく影響しているのか？

A. 自動車鋼板の購入価格は全てが金属市況とリンクするものではないため、金属市況の上昇が直接影響するものではない。一方でアルミは市況連動のため、価格が上昇すると恩恵を受ける。1Qにおける市況上昇の影響は特定の金属というよりは全般的に良かった。

以上